

2010(平成 22)年度 西南学院の決算概要について

西南学院をはじめ私学振興助成法により補助金の交付を受ける学校法人は、学校法人会計基準の定めに従い会計処理を行い、計算書類(決算書)を作成する必要があります。本学院もその基準に従い、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表を作成しております。

2010(平成 22)年度決算は、5月12日に監事監査を終了し、5月27日の定期理事会・評議員会において承認されましたので、その概要についてご報告いたします。

(1) 資金収支計算書

資金収支計算書は、当該年度の諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容並びに支払資金のてん末を明らかにするための計算書です。この計算書は、企業会計におけるキャッシュ・フロー計算書に近いもので、当年度の収入と支出の他に、前年度及び次年度の収入(前受金、未収入金)や支出(前払金、未払金)を含めたあらゆる資金の収支が網羅されており、資金活動の安全性を表しています。

2010年度の資金収支差額は▲12.7億円となり、その結果として、支払資金が前年度末の53.4億円から40.7億円に減少しました。

(2) 消費収支計算書

消費収支計算書は、当該年度の消費収入及び消費支出の内容及び均衡の状態を明らかにするための計算書です。前述の「資金収支計算書」上で、収支のつじつまが合っているだけでは、経営の状況を把握することはできません。これを補完するものが「消費収支計算書」です。この計算書は企業会計における損益計算書と類似しており、学校法人の採算性を表しています。収入の中には企業会計での資本金収入が含まれているため、その中から資本金支出に使用した金額を基本金組入額として帰属収入から控除し、残額(消費収入)を消費支出に充てる形式になっています。財政状況の健全性を判断することができます。

帰属収入は、昨年度実績より0.8億円、予算に対して0.6億円の収入増となりました。学生生徒納付金については、ほぼ予定どおりの収入となっております。手数料の減少は、受験生の減少によるものです。寄付金は、収益事業会社(キャンパスサポート西南)、中学・高校・小学校の後援会等からの寄付が主なものです。補助金については、耐震改修工事に対する補助金をいただきました。学校を取り巻く環境はますます厳しくなる中でも、本学院は、ほぼ順調な収入となっておりますことは、大変良い状況と言えます。

基本金組入額は、主に大学メディア棟(仮称)、西南会館、体育館のための2号基本金7.5億円、大学、中学・高校の奨学基金(3号基本金)2億円を組入れました。

消費支出の部は、昨年実績より28.7億円増となっております。今年度は退職給与引当金の計上基準を50%から100%に変更し、また、固定資産の耐用年数・残存価額等を見直したことにより、例年と大きく異なっております。予算に対しては6.2億円の減少となり、教育研究経費3.8億円、管理経費1億円、予備費1.6億円の残があったことの結果です。また、奨学金や教育・研究環境の充実を図っておりますが、減価償却費が大幅に増加したため教育研究経費は前年比7.6億円の増加となり、その割合は帰属収入の29.6%と昨年度の23.2%より増加し、全国平均(同系統法人平均)の28.5%を上回っております。学校毎に事情が違いますので、一概に全国平均と比較しての良し悪しは言え

ませんが、さらなる教育研究の充実を目指します。また、管理経費は、前年度含まれていた小学校設置にかかる経費は減少しましたが、教育研究経費と同様に減価償却費が増加したため、前年とほぼ同じ状況となっております。

消費収支差額は、予算において 33.2 億円の支出超過を計上しておりましたが、26.4 億円の支出超過となり、6.8 億円収支が好転しました。また、機器備品の総合償却による除却(耐用年数が満了となったものを除却)のための基本金取崩額は、予算に対して 1.8 億円増加し、翌年度繰越収支差額は 8.6 億円好転しました。

(3) 貸借対照表

貸借対照表は、年度末における学校法人の財政状態を示しています。資産（土地・建物等の固定資産、現金預金等の流動資産）、負債（退職給与引当金等の固定負債、未払金・前受金等の流動負債）、基本金（自己資金により資産を調達した額）及び消費収支差額が表示されており、基本的には企業会計と同じ考え方です。学校会計に資本という概念はありませんが、基本金と消費収支差額が企業会計の純資産(正味財産)の部にあたります。財政状況の安定性を判断することができます。

2010（平成 22）年度末での総資産は 640 億円、負債の部は 57 億円で、その差額である正味財産は 583 億円となり、前年度より 17 億円増加しております。そして、この総資産 640 億円の内訳は、固定資産では、有形固定資産が 399 億円、有価証券 89 億円を含むその他の固定資産が 188 億円、流動資産では、現金預金 41 億円と有価証券 9 億円が主なものです。一方、借入金はなく、財政的には健全といえます。

「有価証券の含み損」については、2010 年度末で 9.9 億円（2010 年度末時点で解約した場合の損失額）ですが、すべて満期保有目的の債券ですので学院の資産への影響はありません。